

放送日： 平成 20 年 3 月 17 日  
タイトル： 外来診療における心不全について  
担当者： 医師 酒井 宏

今回は外来診療における心不全、いわゆる慢性の心不全について、話をさせていただきたいと思います。心不全という言葉は、日常診療にてよく耳にするかと思いますが、どういうイメージをもっておられるでしょうか？

多くのかたは週末期における呼吸困難の状態を思い浮かべて、怖い病気だと考えているのではないのでしょうか？

実は心不全とは病気の名前ではありません。心臓の構造や機能が障害されることによっておこってくる状態をすべてひっくるめて心不全といっているのです。よって一言で心不全といっても重症度や原因は様々です。

ではどういうものが心不全の症状なのでしょう。

心不全の症状には大きく2つあります。

一つは、うっ血といわれる症状で、息切れ、呼吸困難、むくみといったものです。

もう一つは、心臓の拍出量の低下からくる症状で、倦怠感、尿量減少、手足の冷感といったものです。このような症状が続くようならば慢性心不全の可能性があるとと言えます。

では、もし外来診療で心不全といわれたらどうしたらよいのでしょうか？

私は次の2つのポイントが重要だと考えます。

一つ目は、自分の心不全の原因を知ることです。症状は同じでも原因が全く違う場合があり、それぞれによって治療法や薬が異なることがあるので注意が必要です。原因検索の方法としては心臓のエコー検査や心電図などがあげられます。とくに心エコー検査は原因だけでなくその重症度もわかりますので、まずは一度受けられることをオススメします。

原因が狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患である場合は入院していただき心臓カテーテル検査を行うこともあります。

2つ目のポイントとしては 自宅での目安をもつということです。

基本的に心不全は病状を悪化させずにコントロールするということが重要であります。それには普段からの血圧や体重のコントロールが欠かせません。つまり、毎日の血圧、脈拍、体重を測定し、目安をつくってそのよい状態を保つようにすることが大切です。体重や血圧が急激に変化してくるようなら来院していただき薬を調整する必要があります。このように自宅での測定は診療において非常に役に立つ情報となります。

以上のような原因把握と、血圧や体重測定によるコントロールの2つのポイントに気をつけていれば心不全といわれても怖くないのではと思います。